

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000260		
法人名	有限会社 睦和福祉会		
事業所名	ライフサポート あさひ		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字鹿江1413-8		
自己評価作成日	平成 31年 2月 8日	評価結果市町村受理日	令和1年8月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成 31年 4月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スプリンクラー設備は中部広域連合管内第1号。リビングや各居室には加湿空気清浄機を設置している。(室温と湿度の管理)害虫駆除や衛生面でも専門の業者をお願いをし、定期的に点検が行われている。感染症の予防に関しては、ノロウイルスに効果のある次亜塩素酸を含む消毒液を毎日作り、手すりや床を拭きあげたり、インフルエンザに有効な加湿器を使用している。また、入居者様の状況に応じ簡単なリハビリを実施。体を動かしたり、塗り絵をしたり、外出したりとレク活動を行っている。浴室にはリフトを設置しており、介護度の重い方でも負担なく入浴出来る。ベッドからの移乗の際は安全に移乗できるように介護ロボットを導入している。これにより職員の腰痛軽減にも役立てられている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園の中の閑静な住宅街に位置する2ユニットのグループホームである。ホーム内には入居者の絵画の作品等、手作りの装飾品がたくさん飾られ、温かみのある雰囲気である。毎日の清掃や、共有空間や全居室に加湿器や温湿度計が設置され、入居者の健康面や衛生面に配慮されている。介護ロボットを導入し職員の腰痛予防に努めたり、勤務調整により休暇を取り易い環境を整えたりと、職員の勤続年数が長い要因となっている。また、花見や近隣保育所の夏祭りに出かけたり、ホームの夏祭りに地域の方が参加したりと、積極的に外出や地域との交流が行われている。のどかな環境のもと、入居者と職員の元気で明るい笑い声が響き渡り、ゆっくりと安心して過ごすことができるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小ミーティングや全体のミーティングで理念に基づいた取り組みを行えるように話し合いを行っている。また理念はリビングに掲示している。	「地域に基づき、明るく楽しい環境の中で安心と尊厳のある生活を提供いたします」というホーム独自の理念をリビングに掲示し、会議時に職員全員で共有することで、実践につなげられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の川副ネットワークの勉強会、敬老会への参加、運営推進会議での交流がある。施設間の防火ネットワーク訓練など	地域の敬老会へ参加したり、近隣の保育所の夏祭りに出向いたり、ホームの夏祭りに地域の方が参加したりと、積極的に地域と交流されている。また、外出や散歩の際の地域住民への挨拶等、日常的にも交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、家族会などを通して認知症の方の理解や支援の方法について説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おたっしや本舗の方と自治会長を招いて情報交換を行っている。施設間の防火ネットワーク訓練など	2ヶ月に1回開催し、地域の代表者や地域包括支援センター職員等が参加されている。ここでは活動報告や勉強会等が実施され、サービス向上に活かされている。家族等へは月の便りで案内されているが、参加には至っていない状況である。	参加しやすい名称に変更したり、便りで案内したりと、工夫されているが、今後さらに、家族会や面会に合わせる等、家族等が参加し易い日程の調整等の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	居室の空き状況などおたっしや本舗との協力関係は築けている。また必要に応じて生活福祉課などの市の担当者の方とお互い連絡、相談を行っている。	市の担当者や地域包括支援センターとは連絡を密にし、良好な協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を年2回以上行い、理解を深めている。身体的拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催している。毎日、身体的拘束適正化のチェックを行っている。	外部からの侵入者の防止等、安全確保のため、玄関の施錠をされている。その他の身体拘束等はなされていないが、3ヶ月に1回身体拘束等適正化検討委員会を開催し、指針の確認やリスク確認等がされている。また、年2回内部研修を実施されている。	今後、玄関の施錠の時間を限定し、支援が行き届く間、入居者が落ち着かれている間等、短時間でも開錠されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の勉強会で理解を深め、ミーティングにおいて注意、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会により理解を深め、必要な場合には相談に応じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際に説明を十分に行い、納得、理解していただいたうえで署名、捺印をしてもらっている。契約終了時にも契約解除届けを書いてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回の家族会に、1家族ずつ個室で対応する機会を設け、その時に要望などを聞いている。	面会や年1回の家族会の際に個別に家族等の意見や要望を聞き、それらを運営に反映できるよう努められている。また、電話連絡や月1回の便りで近況報告等もなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を言いやすいように少人数に分けての、ミーティングを実施。その意見を全体会議で話し合うようにしている。他、食事会を通しての意見交換を行っている。	会議の際や個別に職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを検討することで、運営に反映するよう努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人ひとりの勤務状況を把握した上で賞与に反映するようにしている。勤続年数に応じて社長賞があるなど福利厚生が充実している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて研修を受けられるようになっている。また、資格取得の為に休暇にも対応されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川副のネットワークへの参加で同業者、多職種との交流機会があり質の向上につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時やサービス開始する段階で利用者が困っていることや、要望が無いかを尋ね把握していくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時やアセスメント時に家族からの要望や心配している事はないか話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に、今後必要と思われるサービスを考え実施している。通院介助や往診など		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の生活の知恵や経験、料理の味付けなど、とても勉強になる。佐賀の歴史についてなど聞くこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態に応じて、ご家族と頻りに連絡を取り合い、今後の方針に向けた相談を行っている。また、ご本人から電話や外出、病院受診、散髪、必要物品の購入などいつでも対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人への手紙や電話などいつでもできるようにしている。また、ご近所の知り合いの方などいつでも面会できる様にしている。	友人や知人の面会の際にゆっくり過ごせるよう配慮したり、電話や手紙の取り次ぎを支援したりと、馴染みの人との関係が途切れないよう支援されている。また、自宅近くのドライブや墓参り、美容室の利用等、馴染みの場所とも関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動を通してなるべくリビングで過ごしてもらい、職員や他の入居者様と交流ができるようになっている。また、ユニット間がガラス扉なのでお互いのユニットが見えるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時や普段の生活の中で、定期的なアセスメントを行い、希望や意向の把握に努めている。困難な場合もなるべく入居者様本位のサービスが行えるように考えている。	日々の会話の中で一人ひとりの思いや意向の把握に努め、希望に沿えるよう対応されている。困難な場合は、様子や表情、生活歴、家族からの情報等により本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に今までの生活環境や生活歴について話を聞き、ご本人様の趣味や嗜好、サービス利用の経過について把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の担当職員をはじめ、全職員が普段の生活状況を見ながら、利用者様のその時の可能性について考え、会議の場や業務の中で把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し意見や要望などを話し合いながらケアプラン作成、モニタリングを行っている。	本人、家族等と話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画が作成されている。作成に際し医師からは意見書を貰われている。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、必要に応じて計画を修正、変更されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に、毎日のケアや気付いたことを記録してあり、職員間で申し送りを行っている。内容によっては、介護計画に組み込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の必要性があり、その際にご家族様の都合が付きにくい場合は、有料ではあるが代わりに職員が付き添い、受診している。また、入院中に必要な物品などを準備することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、実施されている川副ネットワークに職員が交代で参加しており、地域の社会資源について把握を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に今までのかかりつけの医療機関の受診を希望されるか否かの確認をして希望に沿っている。	希望に応じてかかりつけ医への受診が可能である。協力医療機関とは24時間の協力体制が構築されており、受診は家族対応であるが、難しい場合はホームで支援されている。また、往診や訪問看護も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて非常勤の看護師と協力医療機関の看護師、訪問看護師に相談、情報提供し、速やかに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は、経過に伴い医療機関との連絡を取り合い、状況に応じて話し合いを設けている。早期退院に向けて働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期のあり方について、ご家族様に説明をし、同意書をとっている。また、終末期となられた場合には、ご家族様と医療機関、グループホーム職員が密に連絡を取り合い、今後の事を話しあっている。	重度化した場合や終末期のあり方については、契約時に説明し、看取りも行われている。状態に応じて家族、医師等と話し合い、チームで支援に取り組まれている。また、会議を通して職員全員で情報共有もなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊の指導の下、応急救護の実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。川副地区の他施設との合同避難訓練の実施を行っている。	年2回、昼夜想定避難訓練を実施され、要支援者の情報カードも準備されている。また、ホームは地域の合同避難訓練に参加している。しかし、地域住民のホームの避難訓練への参加や協力体制の構築と、火災以外の災害に対する訓練はこれからである。	訓練を運営推進会議の前後に実施する等、地域住民が参加し易い日程の検討を今後期待したい。また、火災以外の災害に対する訓練の実施も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の自尊心を傷つけないように、また、思いやりのある適切な言葉遣いができるように努力している。介護技術についての勉強会を行っている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応がなされている。接遇に関しては、事業所内で研修を実施されている。また、個人情報の保護にも配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レク活動では何をやりたいか、どこに行きたい、食べたいのか、お誕生日プレゼントは何が欲しいのか聞いたりして計画を立てている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはあるが、起床時間、入浴時間、就寝時間など一人ひとりの希望にそっている。またその日着る洋服なども決められている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、外部からの美容室の方に来ていただき、カット、パーマ、カラーをしてもらっている。また、化粧品などの購入も職員が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きテーブル拭きなど手伝ってもらっている。嫌いな食べ物については、別の商品を提供したりしている。また食べやすい食器やスプーンなど使用している。	食器拭きやテーブル拭き等を入居者と職員と一緒にされている。また、希望に応じて献立を変更して、好みのものを提供したり、家族会の際に家族と一緒に食事したりと、食事が楽しみなものになるよう支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎回記録し、水分摂取量が少ない方は水分の量をはかっている。また嚥下が悪い方はトロミを使用している。食事形態も個々に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施。自分で出来ない方には介助している。またスポンジブラシも使用しており、2週間に1度は義歯洗浄剤を使用している。口のトラブルは歯科往診を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェック表に記入し、個々にトイレ誘導を行っている。出来るだけオムツを少なくする方向に支援している。	排泄チェック表を活用しながら一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレに誘導することで、排泄の自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く入った食材とバランスの取れた献立になっている。また汁物の具は多くの野菜を入れるようにしている。水分の量は疾患に応じて主治医に尋ねている。場合によっては内服の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に応じて入浴してもらっている。午前、午後どちらでも良い。リフトも設置している。	2日に1回の入浴であるが、希望に応じていつでも入浴可能である。リフトを設置することで、誰もが浴槽に浸かることができ、脱衣室にエアコンを設置することで、温度等にも配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて、入居者様の好きなように過ごされている。リビングや居室など昼夜逆転されないように運動やレク活動を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服情報はファイルに閉じてあり職員が把握しやすいようになっている。薬の変更があった時もわかり易いように記録し、申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、テーブル拭き、カラオケ、塗り絵、軽作業をされたりして、気分転換をされている。外出レクや散歩など		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日には外気浴や、散歩に行ったりしている。他にもお花見などの外出レクを行っている。	日常的に散歩や外気浴に出かけられている。また、気候の良い季節は毎月、花見や公園等へドライブに出かけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出される方には希望に応じてお小遣いを持たせて使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族との電話はいつでもかけられるようになっている。手紙も出すけれどもあまり書かれる人は少ない。年賀状は書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には絵手紙など掲示している。またリビングや居室には空気清浄機、湿度計を設置している。空調が直接当たらないように注意している。	共有の空間には天窓から光が入り明るく、入居者の手作りの装飾品や季節の草花が飾られ、温かみのある雰囲気である。空気清浄器や加湿器、温湿度計を設置し、衛生や健康に配慮されている。また、足音等にも配慮し、居心地よく過ごせるよう努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでなるべく過ごしていただけるようにレクリエーションを行ったり、居室で過ごされている方には見守りを行っている。ソファで過ごされる方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、その他の小物など、今まで自宅で使用されていた愛着のあるものを持ち込めるようになっている。	居室には家具や写真等、好みのものや馴染みのものを何でも持ち込みが可能である。ベッドの位置調整をしたり、全部屋に加湿器や温湿度計を設置したりと、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様がご自分の居室と分かるように表札を設けている。また転倒防止のためにセンサーを利用し安全確保に努めている。使用しやすい箇所に手すりを設置し排泄動作がスムーズに行えるようにしている。		